

8月5日(火)

霊的な安心

聖書朗読 ルカ 21:29~38

この天地は滅びます。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。
ルカ 21:33

米国経済の不安定さについては、多くのことが言われています。大半の経済学者は、投資の抑制と回復の遅れについては非常に不確実であると考えています。カリスマ的企業家であるジェフ・ベゾスは、最近、企業にとって最も重要なことは、「明確な戦略を持つこと」と述べています。確かに、明確な戦略は投資家に安心感を与えます。

同じ法則が私たちの霊的な安心にも当てはまります。神様の経済は、推測や不確実な計画に立脚はしていません。私たちは、主への完全な信頼をもつことができます。私たちは完全に安心できるのです。神様のみことばは不変です。神様のお約束は常に真実なのです。

預言者イザヤは靈感により、『草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことばは永遠に立つ。』（イザヤ 40:8）と述べています。私たちの変わることのない救い主は、『この天地は滅びます。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。』（ルカ 21:33）と仰せになられました。

私たちの霊的な生活は、神様のみことばの変わらぬ真実のうちに穏やかで安心なものとなるのです。果たされないことは何一つありません。『その恵みは私たちに大きく、主のまことはとこしえに。ハレルヤ。』（詩編 117:2）

讚美歌 267

祈り 父なる神様、あなたの完全な変わらない救いのみことばを通して霊的な安心を私たちにお与えくださいますことを感謝申し上げます。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

マーク・R・ガイ

カリフォルニア州 ヴァレーホ

8月6日(水)

ヨハネの証言

聖書朗読 ヨハネ 1:19~28

からだの中で比較的弱いと見られる器官が、かえってなくてはならないものなのです。
Iコリント 12:22

私たちは頻繁に、神様は私たちの人生のために御計画をご用意されていると聞かされます。私たちは、イザヤ、エレミヤ、パウロといった聖書に登場する、神様によって選ばれた重要な人物を例として知っていますが、私たち自身のために神様がどのような計画をご用意されているのか知りたと思っています。

しかし、もし神様が私のためにご用意下さったご計画が、「ありきたりのクリスマスチャン」であったらどうでしょうか？私への召命が、親となって子どもたちのためにクリスマスチャン家庭を形成することなのかかもしれません。もしくは、神様は、私に、孤独のうちいる人の友となり、救いを求めている人々に手を差し伸べやすいようにと、一生を独身でいることを選ばれるのかもかもしれません。

パリサイ人は、バプテスマのヨハネのもとに祭司とレビ人を遣わして、彼がキリストなのか、エリヤなのか、預言者なのか問いました。ヨハネは「そのいずれでもありません。」と言明しました。ヨハネは、彼のあとから来る人のことを人々に告知させるためにそこにいたのです。それが彼の召命だったのです。

イエス様は、弟子たちに、召使いになるように勧めました。イエス様は、『あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。』（マタイ 20:26）と仰いました。ヨハネは、この考えを心から理解していたのです。召使いの仕事の一つは、主人のくつのひもを解くことです。ヨハネの使命は、彼のあとから来られる方を人々に告知させることにあり、ヨハネがそのお方のくつのひもを解く値うちもないほどの素晴らしいお方が来られることを人々に告知させることにあったのです。

私たちは、私たち自身の召命に高きを望むべきでしょうか？

讚美歌 388

祈り 愛する神様、召使いとして相応しい心を私にお与え下さい。表面上は重要なお思えない使命のうちに、価値を見出すことができますように、重要でない人は存在しないことを覚えさせて下さい。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ティム・ウィリス

カリフォルニア州 マリブ

8月7日(木)

次席の役割を果たす

聖書朗読 ヨハネ 3:22~30

ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。

ピリピ 2:7

私は中学校や高校の吹奏楽団で演奏をしていましたが、金曜日の対抗戦のことを今でも覚えています。その日、団員のそれぞれが、曲の一部を演奏して、それを基にして指揮者が翌週の演奏のための首席演奏者を決めました。

次席に座るといことは、その団員に価値がないからとか単純に良くないからということではありません。次席とは単にその週のために与えられたものなのです。しかし、例えそうであったとしても、自発的に首席を諦めたりする人はいません。

ヨハネは、首席で数か月の間、演奏していました。彼の地位に挑むものは誰もいませんでした。誰も、彼が一番だと知っていました。彼の名声は国中に知れ渡っていました。群衆が「彼の演奏」を聞こうと絶えず押し寄せてきました。

そして、他の演奏者が舞台上に登場したのです。この演奏者は決して失敗しません、決して音を外しません、そして、すべての曲を熟知しています。その時、ヨハネはとて考えられないことを行ったのです。彼は、喜んで、彼の地位を明け渡したのです。彼は対抗戦を挑みませんでした。彼は驚くべきことを言いました『あの方は盛んになり私は衰えなければなりません。』(ヨハネ3:30)。私たちも、困難ではありますが、イエス様が首席に座ることができるように、私たちのそれぞれの席を明け渡しましょう。

讚美歌 365

祈り 父なる神様、人間はたやすく1番目を望みます。主よ、どうか私たちが私たちの人生の主権があなたにあることを覚えさせて下さい。

僕の名によってお祈りいたします。アーメン。

ペニー・F・ニコラス
テキサス州 オデッサ

8月8日(金)

あなたは決して飢えることはありません

聖書朗読 ヨハネ 6:25~40

神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。

ローマ 8:31

孤児の女の子を養子にした家族の悲しい話を思い出しました。養子になってから最初の家族一緒に食事の席で、彼女は、目の前のたくさんの料理に目を見張りました。しかし、食事の後に、食べ残しの料理が彼女の視界から消えると、彼女は、堪え切れずに泣き出してしまいました。彼女は、食べ物がなくなってしまうと、この後、数日間は食することができないかもしれない、という経験を何度もしてきたのです。彼女の養父母は彼女に冷蔵庫の中身を見せてあげて、もう決して飢えることはないと安心させてあげたのです。

私たちの全てが彼女の飢えに理解を示すことができるというわけではありませんが、霊的な栄養失調ならば誰も経験しているのではないのでしょうか？ 疑心暗鬼、失望、または倫理観の欠如によって、私たちが願う霊的な満足が奪われています。食べ物であれば、私たちは求める栄養が足りない時にだけ痛みを覚え、十分な食べ物を与えられている時にはそうではありません。しかし悪いことに、霊的満足に関しては、私たちは自分自身のふるまいで霊的満足を追い払ってしまったことに常に恐れおののいているのです。

今日の聖書箇所の子イエス様のみことばは、恐れおののいている私たちに心地よい安心感を与えて下さいます。私たちの前途にある人生の困難がいかようであったとしても、イエス様は、御父がイエス様にお与えになったもの一切をお捨てになることは決してないとお約束して下さいました。私たちは、イエス様と共に立ち上がるのです。霊的な満足は私たちのうちにあり、二度と取り去られることはないのです。

讚美歌 186

祈り 父なる神様、キリストのうちにありにより、私たちの霊的満足が確約されることを覚えさせて下さい。私たちの常に飢えている心が、キリストにあって満たされることを覚えさせて下さい。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

カーティス・ペーカー
テキサス州 スラトン

8月9日(土)

いのちのパン

聖書朗読 ヨハネ 6:41~59

わたしは、天から下って来た生けるパンです。だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生きます。
ヨハネ 6:51

イエス様は、弟子たちがイエス様の肉を食べ、血を飲むためにお招きになります。もし、イエス様のこのみことばを文字通りに解釈してしまえば、共食のような嫌な響きになります。イエス様が弟子たちに教えたことは、イエス様に倣うものとなりなさいということですが、それは、イエス様を信じる私たちの信仰がキリスト者としての人生を歩むようにと私たちに招くということなのです。

本日の聖書箇所は不思議で難しいメッセージですが、これは、いのちへと至る唯一の道なのです。イエス様の比喩は、パウロが言った、『もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。』(ガラテヤ2:20)を思い起こさせます。キリストに倣うということは、単に知識を受け取るということではありません。生活の全てにかかってくるのです。

キリスト教の信仰を全うするという事は、単にうわべだけの問題ではありません。それは、内面に入り込んで、かつ、職場、銀行口座、家族との関係、休暇、話し方、食事・運動習慣といった日々の生活の全ての要素に幅広く及ぶのです。今日の聖書箇所のこのメッセージは、私たちを通してイエス様の人生を具現化するための招きなのです。

讃美歌 270

祈り 愛する神様、私たちの言動の全てを通して、あなたのご栄光が輝きますように、私たちのうちに今日もいて下さり、居続けて下さいますようにお祈りいたします。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

デイク・ブランド

テネシー州 メンフィス

8月10日(日)

誰と共に歩むべきか？

聖書朗読 ヨハネ 6:60~71

シモン・ペテロが答えた。「主よ。私たちがだれのところに行きましょう。あなたは、永遠のいのちのこぼを持っておられます。
ヨハネ 6:68

ブラジルでの数年間の伝道活動の間に、新しい信徒が信仰を捨てたことが何回かあったのですが、その時のことを覚えています。とある男性は、毎夜、伝道活動に参加し、バプテスマを受けることを決断しました。それは全き喜びに満ちたものでした。しかし、興奮が冷めるとすぐに彼は去ってしまい、二度と会うことはありませんでした。二番目の例は、東洋の健康トレーニングを始めた有能な若い男性で、直ぐに、信仰ではなく、生活の中にその哲学を取り入れてしまい、自分だけではなく、さらに何人かもその考えに取り込みました。三番目の例は、USAID(米国国際開発局。開発途上国の資金・技術援助を行う国務省管轄の政府機関 訳者注)の無料の食べ物支給されている貧しい家族達で、支給センターには大勢が集まりました。しかし、物がなくなると、彼らは集会から去りました。

特に目新しい話ではありません。無料のパンや即効の癒しが受けられる限りは、群衆はイエス様につきまといまいます。しかし、イエス様の教えが難解で受け入れることが難しい際には、その大半は、イエス様を見捨てました。それから、イエス様は、残った者たちに、共に歩むのか、それとも離れるのかとお尋ねになりました。ペテロは、少数派の意見を代表して、『主よ。私たちがだれのところに行きましょう。』(ヨハネ6:68)と尋ねました。神様を見上げる視点から、ペテロは、神様が、イエス様に天国への真実の道を現されているのだということを理解していたのです。これは今も真実です。私たちは、損得に関わりなく、喜んでイエス様に付き従っているのでしょうか？

讃美歌 第二編 41

祈り 父なる神様、私たちが常に唯一のいのちのパンであるイエス様の御跡を踏むことができますようにお祈りいたします。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン

グローバー・シップ

テキサス州 オースティン